

た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX:0595(21)8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>

E-mail:iga-ken@iga.ed.jp

師走を迎えて



2023年も残すところ20日余りとなりました。

年末を迎えると、教職員によく話していたことがあります。「交通事故に気をつけよう」という内容です。なぜか昔から12月は、教職員の交通事故が多い、それも加害者になるケースが多いのです。たとえば、信号待ちをしている車両に後ろから追突してしまうという事故もその一例です。本人の忙しさのせいでしょうか、運転中の注意力が低下しがちになっています。周りも何となく急いでいます。ぜひ、いつもより運転に集中して事故を起こさないように注意喚起してください。

さて、私が車を運転していて、最近感じていることを書きます。車が横断歩道に近づくと、時々小学生や中学生が横断歩道の手前で待っていることがあります。車を停止させると、渡りかけるときに、目を合わせて頭を下げる生徒がいます。また、止まった私の車の前あたりで頭を下げる子どももいます。このようにわずかなことでも、お礼をする子どもたちに出会えるのは、とてもうれしいことです。そして、そのような機会が増えているように思うので、よけいにうれしくなります。

伊賀市では、2005（平成17）年に「輝け！いがっ子憲章」が定められています。7つの大切な項目があるのですが、その中の3番目に「ありがとう、ごめんなさいが言える子」と書かれています。この項目に当てはまるような子どもたちが育っている一例ではないでしょうか。



その一方で、このような経験はありませんか？

車を運転していて、横断歩道にさしかかると、反対車線で自転車から降りた若者が横断しようとしていました。私が車を停止させると、若者は気づき、横断し始めました。すると、私の車の後ろにいたライトバンがクラクションを鳴らして、私の車に前進するよう急かしたのです。そして、その若者が横断している最中にもう一度クラクションを鳴らしました。私は動きませんでした。大変腹が立ちました。バックミラーで見ると、中高年の男性が運転していました。

子どもにいくら立派な大人になれと言っても大人の振る舞いを子どもたちは見えています。横断歩道で人が立っていたら、進んで車を停止させられるような大人でありたいものです。

ちなみに旅先で信号のない横断歩道を渡るとき、ほとんどの場合、先に車が止まってくれることに驚きと違いを感じるの、私だけでしょうか？

